北海道產一新トタテグモの記載

植 村 利 夫

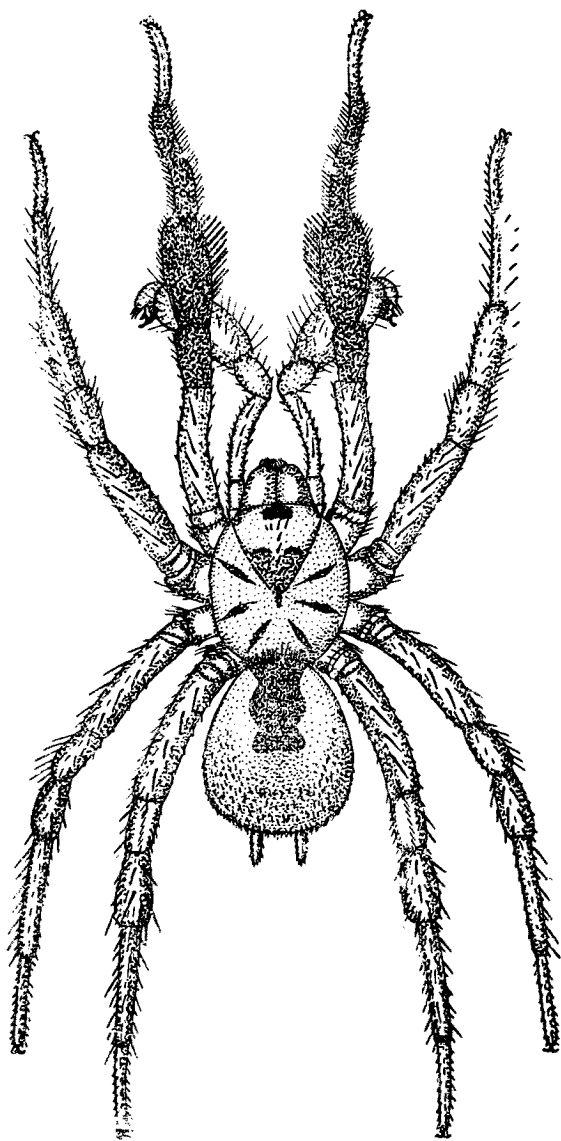
東京市瀧野川區西ヶ原町三一〇

予は頃日進士慶幹氏より依囑されし北海道產蜘蛛類數種の標本を同定中，圖らずも此處に記載せんとするトタテグモ類の一新種を發見して少なからず驚嘆せしものなり。同種は一見して本邦產の珍蛛として名あるカネコトタテグモ *Acattyma Koretzii* L. Koch と同屬なりと判定致せしも，それとは無關係に北海道よりトタテグモ類の一種が發見されしことそれ自體が，日本產蜘蛛類の分布上特筆大書すべき價値ありと確信するものなり。何となれば，邦產トタテグモ類の既知種は何れも北海道はおろか奥羽地方以北に棲息することを確證せられしもの未だ一種もこれ有らず。依つて本種は今後日本產トタテグモ類の分布を論ずる上に重要なる役割を演ずるものなればなり。況んやそれが珍蛛カネコトタテグモと同屬なるに於てをや。

此の貴重なる標本は北見國野付牛町オンネメーム農事試驗場北見支場勤務の石田周市氏に依つて採集されしものにて，同氏より進士氏への御通信に依れば，丘狀地帶の草間にて徘徊中のものを捕へし由なり。蓋し標本は完全なる成體の雄なれば晝間徘徊中のものを採集致せしならんも，注意深く其の附近を探索すれば必ず雌の採集も容易ならん。發見者石田氏並に同地方在住の諸賢に御注意の喚起を希ふ所以なり。

本記載をなすに當り，貴重なる標本の研究を委ねられし進士慶幹氏及び發見者石田周市氏に謹んで敬意と感謝の意を表する次第なり。

Acattyma yesoensis Uyemura sp. nov. エゾトタテグモ（新稱）

基本標本 1941年6月15日北海道北見國野付牛町下仁頃に於て採集されし成雄1頭を以て holotype となす。發見者は石田周市氏。Type specimen は著者の標本 No. 654 として保管す。學名及び和名は蝦夷に因めるものなり。

第1圖 *Acattyma Yesoensis* Uyemura sp. nov.

エゾトタテグモ（成雄）

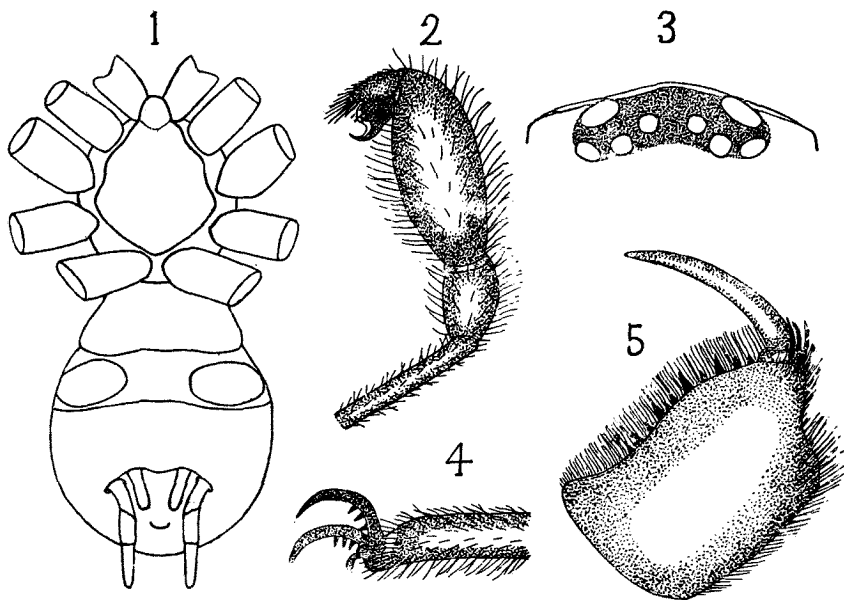
測　定　體長約 8.5 mm. 頭胸部長約 4 mm. 同幅約 3.5 mm.（第二步脚間）腹部長約 4.5 mm. 同幅約 3.5 mm.（中央部）上顎長約 1 mm. 附屬肢の測定結果は次表の如し。

節＼肢	全長	腿節	膝節	脛節	蹠節	跗節
觸肢	6.7 mm.	3.0 mm.	1.0 mm.	2 0 mm.	——	0.7 mm.
第一步脚	13.1 mm.	4.0 mm.	1.8 mm.	2.7 mm.	2.8 mm.	1.8 mm.
第二步脚	11.5 mm.	3.5 mm.	1.5 mm.	2.0 mm.	2.8 mm.	1.7 mm.
第三步脚	10.1 mm.	3.0 mm.	1.5 mm.	1.5 mm.	2.5 mm.	1.6 mm.
第四步脚	12.5 mm.	4.0 mm.	1.5 mm.	1.7 mm.	3.5 mm.	1.8 mm.

形　態　背甲は概形長楕圓形にして，頸溝より前方は稍隆起す。縱向の中窩と其の前方頸溝の中央部にある 1 對の三日月形凹紋は一見して明瞭，其の他に 3 對の放射溝を有す。8 個の單眼は 2 列に並び，前列眼は强く後曲す。直眼は最小にして前側眼は最大，後者は楕圓形にして其の長徑は直眼の 3 倍以上もあり。後列眼は略同大にして直眼より稍大なり。直眼相互及び直眼と前側眼との距離は略相似て直眼の約 1 直徑なり。直眼と後中眼とは直眼の約 1/2，後中眼と後側眼とは僅かに距る。眼は全て乳白色なれども直眼のみは稍暗色なり。眼域の後方正中線上に數本の剛毛を生ず。其の他は概して滑澤なり。

上顎は基部稍隆起し，上端部及び內側に長毛を密生す。前緣部の全幅に紀器を有すれども大して强大ならず。下顎は前方開きにして前後の外角は圓く，前內角は尖り，其の部に剛毛を生ず。下唇部は概して梯形なれども下底は强く半圓狀に凸出するため楕圓形にも見らる。其の基部の幅は高さに劣る。上半部に剛毛を粗生す。

觸肢腿節は外方に彎曲し，背面の上半部には 1 — 2 列の剛毛を生ず。膝節の背面にも同樣の剛毛列あり。脛節は太く長卵形を呈し，全面に長毛を生ず。跗節即ち栝葉は小さく，生殖球の構造も比較的簡單にして，末端把持器は鈎狀を呈す。

第一步脚腿節は側方より稍扁壓せられ外方に彎曲す。膝節以下には多くの長毛を密生し，特に脛節の內側に數列の强大なる刺毛を有し異樣なる觀を呈す。該部は又上下に扁壓せられ色彩も濃厚なり。第二步脚腿節も前脚同樣稍外曲し

第2圖 *Acattyma yesoensis* Uyemura sp. nov. エゾトタテグモ 成雄
1 腹部下面 2 觸肢 3 眼域 4 爪 5 大顎

叉扁壓せられ，脛節の外側及び蹠節の內外兩側には多數の刺毛を生ず。第三第四步脚の膝・脛・蹠３節にも多數の刺毛を生ずれども，全步脚を通じて跗節には刺毛なし。

各步脚の先端には３爪を有し，上爪には３—４齒を有す。

胸板は中凸滑澤にして第一第二第三基節の基部に近く夫々筋點を有し，全面に黑色の剛毛を粗生す。

腹部は全體卵形を呈し，背面には褐色の短毛を密生す。正中線上前半部に王字形を引伸したるが如き心臟班を有し，該部と其の前緣部に剛毛を粗生す。下面も背面同樣に短毛を密生す。

蛛疣は２對にして前疣は１節よりなり，圓柱狀にして後疣の基節よりも長し。後疣は３節よりなり，基節最短末節最長なり。

色　彩　頭胸部は黄褐色にして，中窩及び三日月形凹紋は濃色，眼域は黒く，上顎は背甲と殆ど同色，牙は褐色，下顎及び下脣部は淡黄色なり。

第一歩脚腿節は淡黄褐色，膝・脛・蹠節は濃褐色，跗節は淡褐色なり。他の3脚は略同色にして各節とも淡黄褐色。基節・胸板・第一歩脚の膝・脛・蹠3節を除ける各歩脚の下面は何れも黄白色なり。

腹背の斑紋は褐色，他は淡黄褐色なれども前方兩側は黄白色を呈す。腹部下面は胸板・基節等と殆ど同色，蛛疣は白色に近し。

備　考　本種はカネコトタテグモ *Acu'tyma Roretzii* L. Koch, 1877 に最も近き種なれども，前者は雄未だ發見されず後者は雌未だ發見されず，從つて兩種の比較は困難なれども次の如き諸點に於て明らかに別種なりと認むるものなり。

A. yesoensis Uyemura	*A. Roretzii* L. Koch
1. 背甲の高さは幅に優る。(4.5 : 3.5)	1. 背甲の高さと幅は相似たり。(5.5 : 5.5 = 1 : 1)
2. 背甲前緣部の幅は眼域の幅の約3倍なり。	2. 背甲前緣部の幅は眼域の幅の約5倍に達す。
3. 背甲の後部は目立つて細らず。	3. 背甲の後部は目立つて細る。
4. 頭部は胸部より稍隆起す。	4. 頭部は胸部より著しく隆起す。
5. 上顎は大して强大ならず。	5. 上顎は强大なり。
6. 腹背の前方には横向楕圓形無毛の心臟斑あり。	6. 腹背の斑紋は長王字形にして粗毛を生ず。
7. 腹背の皮膚には横皺あり。	7. 腹背の皮膚は滑澤なり。
8. 胸板の高さは幅に優る。(2 : 1.5)	8. 胸板の高さと幅は相似たり。(3 : 3 = 1 : 1)
9. 下脣部の高さは基部の幅に優る。	9. 下脣部の高さは基部の幅に劣る。
10. 前絲疣は後絲疣の基節及び中節より短し。	10. 前絲疣は後絲疣の基節と略同長なり。

カネコトタテグモの記載

植　村　利　夫

東京市瀧野川區西ヶ原町三一〇